

スモン検診患者の新型コロナワクチン接種に関する状況と問い

— これまでの薬剤服用体験や対処行動とともに —

笹ヶ迫直一（国立病院機構大牟田病院神経内科）

田中亜由美（国立病院機構大牟田病院看護部）

研究要旨

スモン検診継続者を対象に、新型コロナワクチンの接種状況と問いに焦点をあてて、薬害の体験と薬剤服用等の医療に関わる行動の関連性を明らかにする目的にて、半構成的面接を実施した。

対象者4名のうち、新型コロナワクチン接種3名、未接種1名であった。接種行動の理由には、他のワクチンの副反応の体験が影響していた。また、薬剤服用行動や対処の背景には、スモン薬害の体験とともに、服用による症状緩和等の体験があった。

スモン患者の医療に関わる行動には、スモン薬害の体験とともに、ワクチンの副反応や症状緩和などの自分自身の体験が影響を及ぼしていると考ええる。

A. 研究目的

今年はスモンの原因解明から50年となる。2019年時点でスモン患者は約1100人であり、患者の平均年齢は80歳を超えている。恒久対策としての患者検診が実施されており、今後は、キノホルム神経毒性機序や感受性の研究、薬害スモンの風化防止が重要であると言われている。（久留，2021）

当院では2015年より、困りごとに対応しながら、検診者の体験をうかがうことで苦悩を和らげることを目標に、看護師による検診者への面談に取り組んできた。

2020年から新型コロナウイルスが猛威をふるい、感染予防対策の観点から、我々の生活様式の変更を余儀なくされた。診療様式についても、オンライン診療が推奨され、検診についても、訪問検診や電話での問診に変化した。また、新型コロナワクチンや治療薬に関しては、性急な対応が求められ、治験や承認、使用に至るプロセスは類をみない早さであった。

薬害であるスモン患者にとって、新型コロナワクチン接種の動向はどのような影響を及ぼしたのか、状況や問い、その体験を理解し、どのような支援が必要で

あるか検討したい。薬害による病気とともに生きてきた中で、新型コロナワクチン接種に関連した苦悩があれば、体験を語っていただくことでその緩和につながることも、検診担当している医療者の役割ではないかと思い、本研究に取り組みたいと考えた。

スモン検診継続者を対象に、新型コロナワクチンの接種状況と問いに焦点をあてて、インタビューを実施し、薬害に関連する体験と、薬剤服用等の医療に関わる行動の関連性を明らかにし、スモン患者の支援を見出す。

B. 研究方法

対象者：福岡県筑後地区スモン患者を対象に、スモン検診継続者（6名）の中から、研究の主旨を説明し、同意が得られた者

期間：2021年9～12月

- 1) 対象者の経過記録から、発症時の年齢、症状、現在の症状等の情報を収集する
- 2) インタビューガイドを用いて、半構成的面接を実施する
- 3) 対象者の承諾を得られた場合、面接内容の録音

を行う

4) 面接内容から、薬害の体験と新型コロナワクチンの接種・服用等の医療に関わる行動の関連性を分析し、スモン検診者の支援も含めて考察する

【倫理的配慮】

- ・対象者に書面にて、研究の主旨を説明し、個人情報保護等を含めて同意を得た
- ・大牟田病院倫理審査委員会で承認を得た

C. 研究結果

2021年度スモン検診者は来院3名、自宅訪問2名、電話1名の合計6名であり、すべて検診継続者であった。そのうち、同意が得られた4名の対象者にインタビューを実施した。4名の属性は、A氏：80代男性 B氏：70代男性 C氏：70代女性 D氏：80代女性である。4名ともにスモン発症時には数か月寝たきりになるほどの体験をしている。新型コロナワクチン接種状況は、A氏、B氏、C氏の3名が接種しており、副反応はなかった。接種を決めた理由には、接種する機会があったこと、医師による勧め、コロナ罹患によ

る命の危険があった。2名は、かかりつけ医との相談にて接種を決めていた。D氏が接種しなかった理由には、手術合併症と薬害から2度の命の危険を体験しており、3度目の正直でコロナワクチンの副反応における命の危険を感じたと語った。また、接種に関して、C氏とD氏は、相談せずに自分で決めていた。(表1)

新型コロナワクチンが開発された新しい薬剤に対する思いを尋ねたところ、接種した対象者は「スモンとは別の感覚」「ワクチンの副反応の経験がないから大丈夫」などと語った。一方で、接種していないD氏は「新型コロナワクチンの副反応で死んでしまうと思ったから。(薬害を)引き受けたくない」という思いを語った。(表2)

インフルエンザワクチン接種について尋ねたところ、D氏は子供の頃に予防接種の副反応がひどく、接種したことがなかった。接種している3名のうち、A氏、B氏は、以前接種したワクチンの副反応の体験がなく、C氏は微熱程度の副反応の体験があるが「アナフィラキシーショックが出なかったら大丈夫と思っている」と語った。

表1 対象者属性と新型コロナワクチン接種状況

対象者	年齢	性別	スモン発症年齢	発症時の症状	現在の状況	接種の有無	副反応	理 由	相談者
A	80代	男性	20代	下肢麻痺	下肢感覚障害 ADL：時に車いす	○	なし	・骨折で入院した病院で接種する機会があった	かかりつけ医
B	70代	男性	20代	下肢麻痺 視力障害	下肢感覚障害 ADL：自立	○	なし	・ワクチン接種による呼吸器疾患の悪化の心配 ・医師による勧め	かかりつけ医
C	70代	女性	10代	下肢麻痺 視力障害	下肢感覚障害 視力障害 ADL：自立	○	なし	・コロナ罹患による命の危険 ・スモン関連の行事参加のための感染予防	なし →自分で判断した
D	80代	女性	30代	下肢麻痺	下肢感覚障害 ADL：自立	×		・手術による合併症と薬害の体験から、コロナワクチンの副反応における命の危険	なし →自分で決めた

表2：新型コロナワクチンに対する思い

対象者	接種の有無	思 い
A	○	・スモンはお腹を壊した時の薬だから、別の感覚 ・ワクチンによる副反応の経験がない
B	○	・抵抗はなかった ・(接種による副反応の情報など) データは確かなものかどうか分からない。
C	○	・怖くなかった ・アナフィラキシーショックがなかったら大丈夫と思った
D	×	・手術による合併症と、スモンの薬害と2回経験している。新型コロナワクチンの副反応で死んでしまうと思ったから。引き受けたくない。

表 3 これまでの薬剤服用体験と対処行動

対象者	薬剤服用体験	対処行動	若い時の思い
A	(薬害で) 大病を患ったから、これ以上の大病はないだろう。	そのまま飲む (医師やメーカーが神経を使っていると思って、逆に安心して飲む)	・ 変わらない ・ (スモンの薬害) あれ以上の薬はないだろう
B	熱が出て解熱剤を飲まない訳にはいかないから	医師に説明を聞いて飲むようにしている	・ しばらくは怖かった
C	育児中に、ひどい気管支炎になって内服して効果を感じて病院に行くようになった	医師から (効果・副反応) 説明してくれる	・ 10~20 代は風邪をひいても医者に行かず漢方薬で対応していた
D	かかりつけ医や薬剤師と情報共有している	・ 薬が合わないものは医師に伝えるようにしている ・ 処方された薬は調べる	・ 悪いところは治療してもらわないことには。

これまでの薬剤服用体験と対処行動については、コロナワクチン接種している A 氏は、スモン以上の大病はないと捉え「そのまま飲む」対処をしていた。その他の 3 名は、薬剤への怖さから、自ら医療者との関係を築いて「医師からの説明を受ける」「医師に合わない薬を伝える」「薬剤情報を調べる」対処をしていた。また、B 氏と C 氏の 2 名は若い時に、怖さから服用・受診行動を控えていたが、病気の悪化を契機に受診し、治療・症状の緩和という体験を経て行動が変化していた。A 氏と D 氏は若い時から服用・受診行動に変化はなかった。(表 3)

インタビューの中で、3 名がスモンを発症した時の体験を語った。そして、体験として「お薬で壊れたからだ、懲りてるお薬で生きていかなんですね」と、薬局で話すことや、「スモンは体の真ん中の薬だからひどかったんじゃないか」という捉え方が語られた。また、スモン以外の病気の合併、例えば骨折や循環器疾患等でかかりつけ以外の医療機関を受診または入院した体験が語られた。スモンのことについて知らない医療者や医療関係者に会うこと、医療費等に関して苦労したり、同じスモン患者に相談したりして対応したことが語られた。

D. 考察

〈新型コロナワクチン接種行動に関連する要因について〉

国立感染症研究所によると、2012 年 12 月現在、2 回目接種 77.5%である。角谷らによると、2021 年 2 月に実施した全国調査で、コロナワクチンの接種が無償で受けられるようになった際に、ワクチン接種をするか聞いたところ、53%の回答者がワクチン接種に躊躇

していることが明らかになっている。ワクチン接種にネガティブな影響を与える社会経済的属性には、女性、年齢、主観的な健康不安などが明らかになっている。(角谷ら、2021)

筆者は、スモン患者にとって、薬害の体験があるため、新型コロナワクチンの開発が急がれたり十分な臨床試験が行われていないなどのワクチン開発に関わる安全性により、新型コロナワクチン接種に消極的な影響を及ぼすと考えていた。しかし、接種機会、医師による勧め、コロナ罹患による命の危険を理由により、3 名が接種していた。また、他のワクチンの大きな副反応がない 3 名が接種し、大きな副反応があった 1 名が接種していないことから、ワクチン本来の副反応の体験が接種の有無に影響していると考ええる。

就業者の調査で、接種意向に及ぼす因子は、新型コロナウイルス感染症への重大性・罹患可能性の認知、ワクチンの有効性の認知、主観的規範(社会・大切な人からの接種期待)、行動信念(ワクチン接種は必要である等)、行動コントロール感(自分で決めることができる等)があった。一方で、ワクチン接種のリスクの認知、リスクへの感情、自己効力感について統計学的有意が認められなかったと述べられている。(瓜生原ら、2021) 対象者の接種行動にも、新型コロナウイルス感染症への罹患可能性の認知、かかりつけ医による勧め、自分で決めたことが影響していると考ええる。しかし、接種していない対象者は、スモン薬害の体験と、ワクチンによる大きな副反応の体験、医療による合併症の体験による命の危険があり、ワクチン接種のリスクの認知、リスクへの感情が影響していると考ええる。このことは、スモン薬害の後、薬剤やワクチンの

安全性が高まり、副反応の体験をすることが少ないこと、薬害のニュースが少ないこと、スモン薬害の風化など就業者の背景との違いであると考える。

〈薬剤服用行動に関連する要因について〉

対象者3名は、自ら医療者との関係を築いて、かかりつけ医や薬剤師などの説明、対話、薬剤情報を調べる対処をしており、薬害の体験が影響していると考える。また、2名は若い時に服用・受診行動を控えており、治療・薬剤服用による症状緩和という体験を経て行動が変化していた。また、若い時から服用・受診行動に変わりはなかった2名について、1名は薬害の体験により、スモン薬害後の薬剤は安全性が確保されているという捉え方から、処方されたものをそのまま飲む。もう1名は、薬害の体験から、合わない薬を医師に伝える、薬剤情報を調べる対処をしていた。このことから、スモン患者の薬剤服用行動には、薬害の体験が影響しており、対処方法には対象者の捉え方、症状緩和などの体験が影響していると考える。さらに、小山内らによると、服薬行動に関する服薬阻害要因の影響について、「不快な経験の有無」は、服薬行動が不良になる患者属性であると述べており、その内容は、副作用の発現など薬そのものによるものか、医療者側の説明不足や不親切な対応などによる不信任なのか、明らかになっていないと述べている。(小山内ら、2015) スモン患者にとっては、薬害による要因が根底にあるがゆえに、適切な服用行動のために医療者からの説明や丁寧な対応が重要であると考える。

〈医療に関わる行動に関連する要因について〉

今回、薬剤服用行動において、薬害の体験を経た薬剤内服に関わる対処を尋ねたところ、かかりつけ医との信頼関係を築き薬剤服用や受診などの行動につながっていた。また、インタビューの中で、スモン発症時の体験が語られたことから、対象者の生活の中で、スモン以外の病気の罹患と治療、薬剤服用、ワクチン接種の機会に、薬害による体験が思い出されていることがうかがえる。このことから、スモン患者の医療に関わる行動において、薬害の体験が十分に関連していることは明らかだが、今回、それ以外に、ワクチンによる

大きな副作用、薬剤服用による症状緩和などの自分自身の体験が関連していると考える。

〈スモン患者への支援〉

スモン患者の薬害による体験と捉え方は、薬剤服用行動だけでなく、受診行動、ワクチン接種などの医療に関わる行動に影響していた。また、医療に関わる行動を選択する時に、薬害の体験が思い出され、苦悩することもあると考える。このことから、今後のスモン患者の支援として、医療者による最善の医療の提供、特にスモン患者それぞれの薬害体験の理解を踏まえた説明や対話が必要であると考える。

新型コロナワクチン接種を決意した要因には、信頼できるかかりつけ医による説明や勧めがあったと考える。さらに、スモン以外の病気に関わる医療機関での体験からも、スモンを理解している医療者とのつながりが、今後のスモン患者の生活に必要であり、スモン患者の体験の共有等の風化防止に努める必要がある。具体的には、スモン患者の体験を共有し、医療の提供にあたり説明や対応を行うこと、かかりつけ医以外の医療機関や行政との連携が必要である。さらに、医療者につながる検診の意義を果たせるように、検診形式など個々のスモン患者に応じた検診体制の整備は課題である。そして、スモン患者が安心して過ごすことができる、新型コロナウイルス感染症予防についての情報提供を行う必要がある。特に、薬害の体験から、新型コロナワクチン接種をしていないスモン患者への感染予防対策の情報提供は重要であると考え、スモン研究班作成の小冊子の活用をしていく。

E. 結論

スモン患者にとって、新型コロナワクチン接種を含め、薬剤服用行動等の医療に関わる行動には、スモン薬害の体験とその捉え方とともに、他のワクチンの副反応や薬剤服用による症状緩和などの自分自身の体験が影響を及ぼしていた。スモン患者の支援として、医療者による薬害体験の理解を踏まえた医療の提供や対話が必要である。

G. 研究発表

なし（スモンに関する調査研究班報告会のみ）

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) 久留 聡. スモン原因解明から 50 年. 臨床神経学. 2021 ; 61 (2) : 109-114.
- 2) <https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/64657> 角谷 快彦ら. 人々がコロナワクチン接種を躊躇する社会的経済的要因 (2021/11/20)
- 3) 瓜生原葉子. 新型コロナワクチンの接種意向とその影響因子—就業者に対する調査結果—. 同志社大学ソーシャルマーケティング研究センターワーキングペーパー. 2021 ; 1 : 1-25.
- 4) 小山内康德他. 内服薬服用者を対象とした服薬行動に関する服薬阻害要因の影響. 社会薬学. 2015 ; 34 (2) : 72-80.